

保育者は一日の保育をどのように構想するのか

中島寿子・大森洋子*

A Study on Kindergarten-Teacher's Vision of One's Daily Practice

NAKASHIMA Hisako, OHMORI Yoko*

(Received September 26, 2014)

I 問題と目的

I-1 幼児期の教育における実態把握と構想力

幼児期の教育は、その特性を踏まえて環境を通して行うことを基本とし、「幼児の自発的な活動としての遊び」を通しての指導を中心としている（幼稚園教育要領，2008）。

小川（1988）はこのような教育においては、「実態把握」が重要であると述べている。なぜなら、「幼児自身が関心のある人間やものとかかわり、試行錯誤しながら、自分の活動を展開することが必要であり」、「保育者は、幼児の興味のあり方をみきわめて援助することが求められる」からである。そのため、「保育のねらいが前もって提起され、それを具体化するという筋道をたどるとしても、幼児の実態を知らなければ、その具体化はできない」と述べている。

ここでいう「実態把握」には「子どもの事実」「事実の解釈」「事実に基づく予測」という過程が含まれる。小川（1988）は「事実に基づいて、事実としてあらわれていないことを想像する」イメージが重要であると述べ、このイメージ化する働きを「構想力」と呼んだ。

I-2 省察における実態把握と実践構想

この議論をふまえ、吉村ら（1998）は「明示的な実践計画として記述される保育案の前提として保育者の省察を位置づけ、経験豊かな保育者が一日の保育について省察する中で、子どもの実態をどのように把握し、その把握した実態をどのように実践構想の手がかりとして用いるかを検討した。その結果、保育者は子どもだけでなく自分の実態把握もしており、実践上の問題の原因を双方に見出すこと、原因を追求することで実践構想の具体性が増すこと、実践構想にはその具体性の強弱により、明確かつ具体的な「実践行為の計画」と長期的展望の中で位置づけられる「実践の方向の指向」があることを明らかにした。

吉村ら（1998）はこれらの結果から「より長いスパンで実践の方向を明瞭に指向することが、日々の実践行為を検討する際の前提となる」と述べている。

I-3 学級担任としての実態把握

幼児期の教育は、一人一人の実態把握にもとづいて行なわれるが、それは「一クラスの幼児（三十五人以下）が同時に行動を起こす中で、全体を視野に入れながら行わなければならない」（小川，2000）。河邊（2009）はこの課題もふまえて実践構想に活きる記録のあり方を検討し、子どもを断片的にしか見なければ、生活の連続性が尊重されない保育となり、遊びの全体と個

* 山口大学教育学部附属幼稚園

の関係を視野に入れなければ、遊び全体が持続的安定的に展開する保育にならないことを明らかにした。そして、保育者が「持続的眼差し」と「空間俯瞰的眼差し」をもつことの重要性を指摘している。

I-4 その日の保育の中での実態把握と実践構想

以上の研究は、その日の保育について省察する中での実態把握と実践構想について検討しているが、保育者はその日の保育の中でもこのような営みを行なっている。このことについて考える手がかりとなるのが、ショーン (Schön) の「反省的実践家」(reflective practitioner) という概念である。ショーンは、専門家の職業生活は暗黙の「行為の中の知 (knowing in action)」に依存しており、有能な実践家は合理的に分別されたり完全に記述することができない現象を認識することができる」と述べている。そして、行為について (on) 省察している時もあるが、行為の中で (in) 省察している場合もあり、「行為の中の省察 (reflection in action)」は反省的実践家にとって実践の核であると述べている。

I-5 研究の目的

以上の議論をふまえ、本稿でも吉村ら (1998) のように、経験豊かな保育者の省察を取り上げる。そして、その保育者が一日の保育の中で実態把握と実践構想をどのように行なうのかを検討する。その際には、河邊 (2009) が学級担任として必要だと指摘する「持続的眼差し」「空間俯瞰的眼差し」や、それまでの保育経験がどのようにいかされているのかについても検討する。

II 研究の方法

II-1 保育者

保育者はA園の大森洋子教諭である (以下Yとする)。その理由は以下の通りである。

- ・ A園は、一人一人の子どもが自分の好きな遊びを見つけて取り組むことを大切にしており、環境を通して行う教育を実践しようとしている。
- ・ Yは保育経験が25年以上あり、「持続的眼差し」「空間俯瞰的眼差し」をもち、自身の保育について語る力もそなえていると考えられる。また、同じ年齢の子どもを3年続けて担任しており、それまでの保育経験をふまえて語ることも多いと考えられる。

II-2 逐語録の作成

20XX年度にYが担任する4歳児クラス (男児13名、女子9名、計22名) で、中島 (以下Nとする) が保育補助的な働きをしながら参加観察を行なった。子どもの降園後、保育室内でYがNにその日の保育について自由に語った。参加観察をもとにしたNの質問に答えながらYが語ることもあった。その内容はICレコーダーに録音し、後に逐語録として文字化した。

II-3 分析方法

本稿では20XX年度の各学期の当初と後半の一日ずつ、計6日の保育を取りあげる。

一年間の園生活の中での変化も検討したいと考えたためである。

1学期：4月26日、7月4日 2学期：8月30日、12月4日

3学期：1月10日、2月21日

そして、Yがその日の保育の中での実態把握や実践構想についてどのように語るのかを分析する。その際には、「持続的眼差し」「空間俯瞰的眼差し」やそれまでの保育経験、一年間の園生活の中での変化にも着目して分析する。

Ⅲ 結果と考察

Yの語りからの抜粋を表1-1から表3-2にまとめた。

- ・20XX年度にYが担任した4歳児クラスを「青組」とする。
- ・3歳児クラスを「桃組」、5歳児クラスを「白組」とする。子どもの名前も仮名である。
- ・Yの語りの内容を整理し、先行研究もふまえて以下のように表記した。

【実態把握】

- 解釈：子どもの姿をどのようにとらえたか (例)「～ているので」「～だなと思って」
- 予測：子どもの姿をもとにどのように予測したか (例)「～するだろうなと思って」
- 推察：見ていない子どもの姿をどのように推察したか (例)「～だろうと思う」「見てませんが～」
- 感想：子どもの姿をもとに感じたこと考えたこと (例)「うれしかった」

【実践構想】

- 実践行為の計画：実践しようと具体的に考えていたこと、考えたこと
(その日までに、その日に、翌日に) (例)「～と違って」「～しようと」
- 実践の方向の指向：今後実践しようと考えていること、考えたこと
(例)「これからは～」「～していこうと思っています」

【実践】

- 具体的な実践：その日やそれまでの実践で具体的に実践したこと (例)「～しました」

【省察】

- 実践後の省察：その日の実践を振り返り、感じたこと考えたこと (例)「～だなと思って」

【保育経験】

- それまでの保育経験を生かしている部分 (例)「この時期は～」「これが青(組)」

Ⅲ-1 1学期の保育について

(1) 4月26日：晴れ(表1-1)

① Yは新年度当初のこの時期、一人一人の子どもを理解し、関係づくりをしようとしていた。始めは新入児から行なっていたが、この日はNがいたこともあり、進級児にかかわることを「そろそろしたい」と考えていた。

② Yは進級児リコ・ハナが新入児のプリキュア遊びに興味を示したことを、「チャンス」だと思った。そして、リコが「新しいプリキュア(の曲)がいいよ」と言うのを聞き逃さず、その曲を取りに行こうと誘ったことをきっかけに、二人は遊びの中に入ることができた。

③-1 Yは「この人と遊んだという実感」を持ってないでいる進級児ショウとも遊ぼうと考えた。彼が他の子どもたちとアスレチック遊具の方へ行ったことは「見てた」ため、体を動かして遊んでいると推察した。

しかし、行ってみると、「ジュースです」と葉っぱを渡されたことで、イメージをもって遊んでいることがわかった。それで、Yが「ジュース」をもらって飲むというやりとりを楽しみ始めると、ショウもやって来て「ドライブスルーになってる」という自分のイメージを話し出した。そこで、Yはショウのイメージも取り入れながら一緒に遊び始めた。

③-2 Yはこの時期、自分が把握できる場所で子どもたちに遊んでほしいとも考えていた。そこで、保育室からもよく見える「わくわくとりで」への「引越し」を提案した。同じイメー

表1-1 1学期のYの語りからの抜粋(4月26日:晴れ)

<p>① この時期 大事なこと</p>	<p>○「その子がどんな子か」「まだわかんない人もいるのよ」「自分との関係をつくっていくっていうのが」「すごく大事な時なんです」 ○「新入からやっていったんだけど」「今日あたりはもう進級の子でかわれるなって、自分では思っていました」「先生(N)もいらっしやるものもあるから」「そろそろしたいなっていう思いは持っていました」</p>
<p>② 進級児 リコ・ハナ を新入児の 遊びに誘う</p>	<p>○「(リコ・ハナは)二人で遊ぶので、新しい子たちの方には遠慮しているところがありました」「でも(新入児の)プリキュア(遊び)のところで、ちょっと反応を示してやって来たので、あ、これは(新入児の中に入る)チャンスだと思ったんで、「最初はそのスタートですね」 ○「ちょっとひいたところで」「見てたけども『曲が違う』って言うの。リコちゃんが、『新しいプリキュアがいいよ』と言ったので「(リコの言う曲をかけることで遊びに入れるように)『それ先生持ってるのよ』『ちょっと取りに行きましょ』って言って」「そこで、入ったんですね」 ⇒「出会わせてあげる場所とか」「きっかけみたいなものは」「やっぱりいるよなと思って」「いーれーって言って入るものとは違うなって」</p>
<p>③-1 進級児 ショウたち と遊ぶ</p>	<p>○「ショウ君も」「この人と遊んだという実感を私自身が持っていないので(遊ぼうと思って)。アスレチックの方にはいたので、<u>その場に行きました</u>」 ○「ケン君とタクヤ君と」「ハルト君もいました」「ハルト君も進級の子なので」「<u>一緒に出て行ったのは見てた</u>」「<u>跳んでみたり、跳ねてみたり、渡ってみたり</u>ってことかなと思って<u>行ってみたら</u>、ハルト君が、『ハイ、ジュースです』って言って葉っぱをくれたんですね。で、あ、イメージ持ってたんだと思って「<u>ジュースを飲んでたら</u>」「ケン君も『リンゴジュース』とか言ってくれて。何も手にもたないけども」 ○「それを飲んでみたいなことをしたら、ショウ君が来て」「『ドライブスルーになってるんだ』って言って」「<u>いっぱいイメージ持ってるんだな</u>」 「こんなふうに言うんだって思ってたら」「結構いろんなこと言ってきて」「遊んでおりました」 ⇒「今日は遊べると思ったんでしょね」</p>
<p>③-2 遊んでほしい 場所に 誘う</p>	<p>○「アスレチックそのものってのは、珍しかったり好きだったりするんだけど、ちょうど死角になっていて」「<u>青組はことごと(保育室から見える場)で遊んでほしいっていう思いは</u>」持っているので」 ○「ケン君とヒロム君がそこ(保育室の裏)にいるのが見えて」「自分たちであそこまで、(保育室を出て園庭を回り裏側まで)、行ったなって思ったのが二昨日だったんですね」「<u>それで(遊んでいた一人が)ケン君だったので</u>」「『<u>ここも楽しいんだけど、この上と下とあがるのが向こう(保育室の裏)にもあるから行って見ない</u>』『<u>わくわくとどりでって言うんだけど</u>』っていう話を、ショウ君が「『そこそこか行ってみたい』って言って、「<u>引越しよう</u>』って言って」「(どりで)二階にあがったり降りたりあがったりっていうふうなことをしました」 ⇒「言ってることはバラバラなんですけど」「この人がこんなふうに思ってたんだなみたいなことをわかったかな」</p>
<p>④ コウタに 手を振る</p>	<p>○「(常に動きを把握しているコウタを)私が一瞬見失っていたので」「<u>見に行きたいけどなって思いながら</u>」「行けると」「<u>フランクで(園長に)押されてるコウタ君の姿が見えたので、あ、いたいた</u>と思って」「で、私は手を振りながら、<u>こつち(どりで)で遊んで、ここに私はいるよってのを(コウタに)わかるように</u>」しながら「園長先生がやめられたら」「どりでのところにもコウタ君も来たんですね。だから、<u>あー、来たな</u>と思って」 ⇒「人のいる中にあまり来ない人なので」「それもどりの魅力かもしれません」「自分から来たなっていうところが、<u>私にとってはうれしかったこと</u>で」</p>
<p>⑤-1 色水遊び:前日 ・白組の遊びに 誘う ・葉っぱを使う ことを教える</p>	<p>○「(お姫様ごっこは)そんなにやりとりを楽しむ訳でもないのよ」「(白組の色水遊びに誘おうと)『<u>ジュースやさんがあるから行ってみましょ</u>』とかお姫様とか言って」「昨日行っただよ」「何にする?」「『じゃ、この子に<u>フドウジュース</u>をお願いします』とか、最初は<u>ずっとそんなことしてたん</u>ですけど」「ビニール袋に入れて持って帰って」「何度か繰り返した後」「レイちゃんが来て」「(絵具で色水を)作ってもいいかって言って」 ○「<u>青組は絵具で色水を作るのはちょっとやめましょ</u>って」「色を作る面白さもあるけど、それは絵具ですくにしてほしくないね」葉っぱとかでやりたいねって、(他の4歳児クラスの教諭とも)、話をしているので」「先生、葉っぱでできる方法知ってるから教えてあげよう』って言って」 「レイちゃんとミオちゃんが昨日やって帰りました」</p>
<p>⑤-2 色水遊び:今日 ・色水遊びの場 を用意する ・場を抜ける</p>	<p>○「で、今日もそれやるかなと思って、(色水遊びができるように)場所的には、<u>葉っぱとかを出してはいたんですけど、ミオちゃんは来てすぐに『遊戯室に行っていていいですか』</u>って」「それからプリキュアになったので」「<u>まあいいか色水は</u>と思って」 ○「朝来た時に(駐車場)ベンジャミンがパーッと落ちて」「昨日の今日だからと思って(色水に使えたらと考え)」「<u>やってみたら、色が出るから</u>」 「色水するなら、あそこ子どもと拾いに行こうって」「思ってたんだけど」「(Nもかかわり) <u>なんとなくもうその場を自分が抜けてしまったので</u>」 ⇒「帰ってきたらやっぱり、最後は色水になったなあとは思って」</p>

表1-2 1学期のYの語りからの抜粋（7月4日：晴れ）

<p>① 最近の姿</p>	<p>○「あの人があっち行ったから僕も行くみたいなの、動きになってはいるなど」 ○「結構まとまってるというか群れてというか」「という動きがあるように」「最近はなっていますね」</p>
<p>② カブトムシを出す</p>	<p>○「チョウチョを捕まえに行くのが主だったのが」「(保育室に来た)カブトムシで遊ぶみたいなの」 ○「毎日(飼育ケースから)うじゃーってひっくり返すから」「戻さうね、みたいなことをずっと言ってる感じで」 ○「でも、すごく好きなので、(触れるように)出してきましたけど」</p>
<p>③ セイヤの「博物館」を他の子に見せよう</p>	<p>○「セイヤ君も」「虫を描いたりとかしてたので」「(一昨日)博物館にするって言ってたので」「(そのイメージで遊べるように)段ボールに(虫の絵を)はってというみたいなのをしてたんですけど」 ○「恐竜を描いたのを先生(N)に見せに行きましたよね」「それで、続きをしようみたいなことを多分思ったんだと思って。で、(その思いが実現できるようにと考え)私が段ボール広げて」 ○「アイデアマンなんですけど、他の子どもがセイヤ君面白いって言うふうには、なかなかついて来ないところがあるのが、ちょっと自分では難し いと思うところがあるって」「博物館もいきつかかかなとは、ちょっと思ってる」「わりと今日(子どもたちが)部屋の中にいたので」 ○「今日は、カイちゃんが入れてと言ってきた。ショウ君も入れてと言ってきた」「あまりないことなので、<u>非常に私も喜んで</u>」「<u>カイちゃんが入れて言ってくれてうれしいな(等も話して)</u>」 ○「博物館を白組は時々やってはいたんですけど」「<u>ちょうどいいやと思って、この人たちがやりたい博物館とのイメージ(が明確になること)もあるかしらと思って</u>」「去年の(青組の)子どもたちはここでいつもやってたんです」「それが(白組で)ちょっとバージョンアップした形で」 ○「それで、ちょうど(博物館の)チケット(青組に)持って来た子がヒナコちゃんだから、あ、これは(遊びのイメージが)確かだな、(博物館の遊びを楽しむ機会になる)と思って、<u>行ったらジュン君という、あの人も確かな人なので、しっかり案内してくれて</u>」「矢印の方に進んでください」「ここも見ていいですか、いろいろ言うから」「(博物館見学のイメージを楽しめるように)『<u>これ化石だって</u>』『<u>こう回るんだって</u>』『<u>ここにもここにもあるね</u>』とか言いながら、やってて」 ○「そうすると、ショウ君とかが乗っかって来て(アイデアを出し始めたが)」「<u>時間的に無理だなと思って</u>」「セイヤ君が、あの一生懸命作った恐竜が生きなくっちゃ」「<u>あれをみんなが見なくっちゃとすごく思っていたので</u>」「セイヤ君、ショウ君は自分たちで(お答を)呼びに行きました」 ○「来てほしいって気持ちは持っていていうのはあるなと思ったんで(その思いをかなえたいと考え)」「(桃組の担任に)ちょっと来てとか言って」「担任が行くと、重要感が伝わるじゃないですか」「それで(桃組が)来た瞬間に急に青組の子どもたちがザッと並んで」 ⇒「これが青(組)だよなと思って」 「<u>気配を感じて楽しそうだなと思ったところにはバツと来て、その部分だけ楽しむっていうのがあるよな</u>」</p>
<p>④ タクヤがユウに渡した手紙を探す</p>	<p>○「探してみました」「タクちゃんが家で作って来て」「赤い封筒みたいなものを」「ユウ君にあげてるんです」「多分、私はあげた瞬間は見えてま すんですけど」「最後まで(ペラシタに)置いてあって」 ○「これ、ユウ君ももらったんやろってユウ君に渡したら」「その中に入っていないのがタクちゃん見えたから、『中身がない』って」「『<u>大事な物だったのにない</u>』とタクちゃんは言っていたので」「(その思いを大事にしたいと考えて)『<u>悪かったね</u>』と言いながら」 ⇒「昨日は(カイと虫とりに)3人で出て行きました」「あの入(タクヤ)が捕まえるのがうまいとわかってるから」 「でも、お弁当と一緒に食べたりとかしないから」「ユウ君が自分のいいように動いているところがあるから」</p>

ジをもって遊び続けることができ、遊んでいた子どもの一人が二日前に「わくわくとりで」の所まで行ったことが「見えて」いたためである。すると、ショウも「行ってみたい」と言い始め、その後は「わくわくとりで」で「ジュース」を飲む遊びを楽しんだ。

ここでもYは、子ども自身が興味をもった時をとらえるようにしていた。また、遠くで遊ぶ子どもたちの姿も把握し、推察をした上で自分の具体的な動きを考えていた。

④ Yは「人のいる中にあまり来ない」新入児コウタの姿を常に把握しており、見失った時に

はショウたちと遊びながらその姿を探した。そして、コウタの姿を見つけると、「ここに私はいるよ」と伝えるために手を振った。すると、コウタは一遊びした後、自分から「わくわくとりで」やって来た。Yは遊具の魅力もあるかも知れないと思いながらも、ここでもコウタが「自分から来た」ことをうれしく思っていた。

⑤-1 この日の前日、Yは遊びが停滞している子どもたちを誘い、5歳児の「ジュースやさん」で「ジュース」をもらう体験ができるようにした。5歳児が絵具で色水を作り、お店を開いているのを把握していたためである。

すると、その中の一人が自分も絵具で色水を作りたいとYに言いに来た。Yは絵具を使う面白さもあると考えたが、自然物での色水作りから体験してほしいと日頃から考えていたため、葉っぱで色水を作る方法を教えた。

⑤-2 このことから、Yはこの日も色水作りをしたがると予測して、材料の用意をしていた。また、色がよく出る花殻も見つけ、一緒に取りに行こうとも考えていた。しかし、登園後すぐに別の遊びを始めたため、あえて色水作りに誘うことはしなかった。

(2) 7月4日：晴れ(表1-2)

① Yはこの時期、子どもたちが「群れて」遊ぶようになってきたととらえていた。

② また、虫がすきな子どものために、Yはこの日もカブトムシの飼育ケースをベランダに出した。そして、扱い方が雑になっていないか、その様子も把握するようにしていた。

③ セイヤが恐竜の絵を描いてNにも見せている姿を見て、Yは二日前の「博物館」のイメージがあるととらえ、博物館作りのための段ボールを出した。彼の遊びの面白さが他の子どもになかなか伝わらないことを「難しい」と思っていたYは、「博物館もいいきっかけかな」と考えたためである。

また、この日は室内にいる子どもが多く、自分が一緒に遊ぶことで興味をもつ子どもがいることも予測していた。そして、予測通り、遊びに入ってきた子どもがいた時には、「入れてっ言ってくれてうれしいな」と自分の気持ちも伝えた。

この頃、5歳児も前年度楽しんでいた博物館遊びをさらに「バージョンアップ」させていた。そして、この日チケットをもって誘いに来た5歳児は、「ちょうど」Yが遊びのイメージが「確か」だととらえていた子どもであった。そこで、セイヤたちの博物館のイメージづくりにも生かされて「ちょうどいい」と考えたYは、一緒に5歳児の保育室に出かけた。すると、予測通りこの日のメンバーは明確なイメージをもって遊んでおり、Yはそのイメージにそいながら子どもたちと博物館を見て回る遊びを楽しんだ。

このことで、他の子どもにも自分のイメージが生まれた。しかし、セイヤが自分で他のクラスにお客を呼びに行く姿を見て、「来てほしいって気持ち」をもっているとわかったYは、そのことを大事にしたいと考え、「重要感」が伝わるように自分も3歳児クラスの担任に来てくれるように頼んだ。そしてこの日、セイヤが考えた博物館を他の子どもに見てもらうことができた。

3歳児が来ると「ザーッと並んで」はりきって招き入れる子どもたちの姿は、Yが経験的に把握している4歳児像とも合致した。Yはそのことを「これが青(組)」と表現した。

④ タクヤが書いた手紙がないとわかった時には、Yは「悪かったね」と謝って探した。「あげた瞬間は見て」ないが、ユウがもらったまま置きっ放しにしていたと推察し、日頃から「自分のいいように動いている」ユウのタクヤへの態度も気になっていたためであった。

Ⅲ－２ ２学期の保育について

(1) 8月30日(2学期2日目): 雨(表2-1)

① Yはそれまでの経験から、2学期当初の子どもたちは1学期の終わり頃の遊びをまた始めるととらえていた。そして、前日(2学期初日)の子どもたちにも、1学期によく着ていた衣装をYがロッカーにしまっていることに気づき、出して着始めるという姿があった。

② この日は積木で洞窟も作った。6月にはユウが作ると言い、Yがすごく手伝ったのだが、この日は子どもたちだけで作ってしまった。Yは6月の遊びの「再現」だと思っていた。

その後、セイヤがずっと洞窟に誰かが来るのを待っていたため、Yは他の子どもを誘って洞窟に「一生懸命入って」出てくるという遊びを繰り返した。そして、洞窟に来る人とのやりとりにお金があるとセイヤが言ったため、「銀行セット」を使おうと考えた。Yがこういう時のために以前から作っていた物である。

そして、Yの子測通り、興味を示した子どもたちが洞窟に集まって来た。すると、ユウもやって来て自分がしたいように遊ぼうとしたため、Yはユウにセイヤの考えも聞くように話をした。今からは自分の考えを言うこと、人の考えも聞くことを大切にしていこうと考えていたためであった。

③ この日は色水作りも始まった。それまで使っていたすり鉢とすりこぎ以外でも作る体験もしてみようと考え、Yはビニール袋を用意して、花殻と水を入れて作ってそのまま結ぶことができるようにした。しかし、一度結んだビニール袋をあけたいと思う子どもが出てきて、すり鉢とすりこぎを使い始める姿もあった。

そのうち、モエ・シホ・ミオの3人が「ジュースやさん」をすると言い出した。1学期はそう言いながらも自分の物になることが多く、「どうかな」と思いながらYは様子を見ることにした。すると、同じペットボトルに色水を入れたり、話し合っ作ったりする姿が見られた。また、「ジュース」の名前を書いてと言われた時には、一度書いてはることを一緒にすると、自分たちで書いたりはったりし始めた。この3人の姿を、Yは「一緒にしようという気持ち」があり、「なんとなく共有して」「動いている感じ」があるにとらえた。

また、作った「ジュース」をもらいに来た子どもに「すぐハイってあげてた」時には、やりとりの仕方を具体的に教えることで、子どもたち同士でやりとりができるようにした。

Yはこの時期の子どもたちは「作ってる方が楽しい」ととらえていた。しかし、この日は雨で、室内で遊ぶ子どもとベランダで色水作りをする子どもが互いの動きを把握しやすく、「ジュースやさん」をすることで、数人で「集結」しない遊びができるとも考えていた。

(2) 12月4日(表2-2)

① この日はYが「やっぱりこの時期そうだな」と思うことがあった。いつの間にかレイ・シホが遊びを抜けてしまい、リコ・ハナが「やめるとか言わないでどこかに行った」とYに言いに来たのである。そのため、Yは二人の思いを伝えるために一緒にレイたちのところへ行ったが、まずレイたちがリコたちの思いをわかった上で抜けたのかを聞いてみた。そして、わかっていないことを確認し、リコに自分で言えるようにした上で、「黙っていなくなるのが嫌だよ」と、「やめると言う」ことがなぜ必要かを伝えた。

Yはそれまでの経験から、このような姿は「一緒に遊んでいる」という気持ちをもつようになる「この時期」に見られるにとらえていた。

表2-1 2学期のYの語りからの抜粋（8月30日：雨）

<p>① 2学期当初 の子どもの 姿</p>	<p>○「<u>休み明けの時は、</u> 飢えてたように遊びますよね <u>で、いつとき停滞する時があるけど</u>」「<u>そうだった、これもしたかった、あれもしたかった</u>感じで、<u>遊ぶか</u>なっているのはありますね」「<u>去年も一昨年も</u>、「<u>1学期の終わりに</u>したことを、<u>ポーンとまたするんですよ</u>」</p> <p>○「<u>（衣装等を）畳んで全部ロッカーに入れて、見えないと思っただけど</u>」「<u>昨日（始業式）の朝</u>「みんなそこからザーンと出して、着始めて」</p> <p>○「<u>昨日は（始業式で）遊んでないので、今日は遊ぼうと思ってくる</u>なと思って、「<u>目新しい物とか、雨だったりすると何か出しとくとい</u>ような気もするけど、<u>そうでなくてもきつと遊ぶだろうな</u>」「<u>予想としてはあって</u>」</p> <p>○「<u>バツタの歌を教えていたので、そのバツタになるかなと思ったら</u>」「<u>やっぱり</u>」「<u>思いついた遊びをする</u>など」</p>
<p>② セイヤの 洞窟の遊び に入る</p>	<p>○「（6月に積木で）ユウ君が洞窟作るって言って」「<u>その時はすぐ手伝って</u>」「一回限りで終わってたんだけど、今日洞窟って言った時には、子どもたちがワーンとやって、<u>私一切手伝ってない</u>んだけど、あれだけ作ったんですよ、<u>多分それだろうな、その再現だ</u>なと思って今日見てた」</p> <p>○「<u>セイヤ君はずっと</u>」「<u>洞窟来てくれて待ってたので</u>」「<u>こりゃあ、あまりにも</u>と思って、<u>行きましょって</u>思って、<u>私はプリキュア（遊びの子ども）を誘って</u>」「<u>（洞窟の中に）一生懸命入って</u>」「その時は全然ユウ君はいません」</p> <p>○「<u>お金がいるって</u>言ってたから」「<u>ただ100円じゃなくて</u>」「<u>銀行セット（お金を入れチケットが出せるように作った物）があった</u>と思って、<u>（それを使っていたら）子どもたちが来る</u>だろうと」「<u>セイヤ君の気持ち</u>がかなうようにと思って」</p> <p>○「<u>それを出してたら</u>」「<u>ユウ君が人が集まったらや</u>って来て」「（別の）箱を持って来て、<u>お金をこの中に入れる（と言うので）</u>」「<u>セイヤ君はここでお金集めて</u>たよって言って」「<u>こつちがいい</u>と思ったら、<u>そしたらセイヤ君に</u>言っただろ、<u>みたいなことは話</u>しました」 ⇒「<u>今からは自分の考えを</u>」「<u>言っただろ</u>みたいなことを、<u>していかない</u>などと」「<u>ユウ君みたいな人がいると、遊びお遊</u>んだけれども、<u>それで終わらない</u>で」「<u>この人の考え聞いて</u>みてみたいのことをやっつけていこうとは思ってま</p>
<p>③ 色水でジュースやさんを するのを 手伝う</p>	<p>○「<u>すり鉢とすりこぎがないと</u>できないって、<u>言わなくてもいいかなと</u>」「（今日使ったのは）<u>ビニールだったんですけど</u>」「（<u>花殻で色水を作ったビニール袋を結んだ後に</u>）<u>あけてくれて</u>言うから」「<u>最初あけて</u>ただけど、これは無理だからと最初ハサミで切つたら、<u>短いからまた作る（結びなおす）のが</u>難しい。<u>ビニールもつないない</u>よって話をしだして」「<u>すり鉢でもやる</u>って」「<u>両方の子が出て</u>来て」</p> <p>○「<u>で、ジュースやさんする</u>って、シホちゃんとモエちゃんとミオちゃんは」「<u>そう言いながらも、</u>だいたい自分の物になることが多いから、<u>どうか</u>なと思って」「<u>一緒にしよって</u>モエちゃんが」「<u>必ずみんなのところ（ペットボトル）へ</u>入れるんですね」「<u>ミオちゃんシホちゃんは、色</u>が違うことに気がついてきたから、<u>これはブドウ</u>とか」「<u>イチゴにする</u>とか言って」⇒「<u>一緒にしよって</u>いう気持ちはやっぱりありましたね」</p> <p>○「<u>（何味のジュースか）</u>名前書いて、「<u>一緒にそれ（をペットボトルにはることも）</u>最初やると、<u>『書いて</u>」って言ったみたり、<u>私書けるよ</u>」って言って書いたり、はったり」「<u>一個だけ私</u>がはりましたけど」 ⇒「<u>なんとなく共有して</u>」「<u>動いている感じは</u>」「<u>やっぱりある</u>など」</p> <p>○「<u>作ってる方が</u>楽しいから、<u>すぐお客さんとか</u>じゃなくっていいなとは思ってたんですけど」「<u>飲み</u>において」っとか言って（他の子どもたちを誘ったので）。「<u>レイちゃん</u>たちは入って」</p> <p>○「<u>今日は</u>小さい容器物を探してたんですよ、<u>で、小さい容器物</u>あげたら、<u>小分けして</u>入れてて」「<u>レイちゃん</u>が来たなら、<u>すぐハイ</u>ってあげたから、<u>（やりとりになるように）</u>『<u>ミオちゃん、これ何</u>がいるか聞いた方がいいと思うよ』って（言って）」「<u>で、レイちゃん</u>が『<u>イチゴ</u>がいい』って言うから、『<u>イチゴジュース</u>でしょうか』って言ってイチゴちゃん^とあげたりしたので」 ⇒「<u>やりとりのイメージも、</u>少しはあるんだと思います」「<u>でも、そこまでは</u>なかなかいいですね」「<u>作ってたりする</u>ところの方が楽しかったりするんだろうなと」 ⇒「<u>今日は</u>雨だから、<u>お客さんも</u>来るなというのがあるので、<u>あの辺（保育室）</u>に人がいるのもわかってるので」 「<u>3人や4人で</u>集結しないで済んで自分も思うので、<u>なんとなく、</u>そういうふうにもってつたっていうのも、ありましたけどね」</p>

②-1・2 この日、Yは「気になってる」スグルとも遊ぼうと考えた。興味関心はあり活発な一方で、好きな遊びにじっくり取り組む姿があまり見られないためであった。Yは朝からスグルがしたいと考えていた「ポケモンセンター」を一緒に作ろうとしたが、彼のイメージはよくわからなかった。また、セイヤとコウタが再開してYも一緒に楽しんでいた落葉遊びにスグ

表2-2 2学期のYの語りからの抜粋(12月4日:晴れ)

<p>① 遊びから 抜ける時 には伝える ように話す</p>	<p>○「朝、シホちゃん、ハナちゃん、リコちゃんたち」「昨日の続き遊ぼうよねとか言って」「最近よく遊ぶんですね。「リコちゃん、ハナちゃんが ままごとの中に非常によく入るようになって。6、7人で遊んでることが多くなって」</p> <p>○「次のところでかかわった時には、リコちゃんが、レイちゃんとシホちゃんが、『もうやめるとか言わないでどこかに行っただよ』って言う て」「だから急にいなくなったからさみしかったんだ」みたいなことを言ったので「(その思いがレイ・シホに伝わるように)『先生、一緒に いってあげようね』って言って」</p> <p>○「その前に、シホちゃんとレイちゃんに聞いてみようと思って、『何が言いたいかわかるかなあ』って言ったら、『わからないよ』と 言っていたので、じゃ、リコちゃん言ってみようって。ちゃんとそれは言えたんですけど。『怒ってるんでもないし、行っちゃいけないって 言ってることでもないよ』 って」「<u>黙っていきなことが嫌だよ</u>」って言ったら、『うーん、わかった』って言いましたね ⇒ <u>やっぱりこの時期そうだなと思って</u>」「<u>コウタ君くらいとか10月ぐらいから言ってきましたから</u>」「<u>あのぐらいからもう、急にいなくなつた 友だちは嫌すから言うんよっていう話してたんですけど</u>。ハナちゃんとリコちゃんとそう思ってたんだなと思って」</p>
<p>②-1 気になって いるスグル と遊ぶ :ポケモン センター</p>	<p>○「朝一番に」「ここ(段ボールで囲った内側に)ポケモンセンターって貼ってありますけど、「<u>ポケモンセンターがしたかったんですね</u>。スグル君は」 「昨日の帰りに」「<u>白組に行って、(写し絵で作った)ポケモンのカードとかをもらって帰って来ているんで</u>」「お姉ちゃんがあそこにいるから」</p> <p>○「スグル君はそこで過ごすんですね」「<u>そこでじーっと見てたり、バトルしたりしてるので</u>。そんなことがしたいんだろうなどは思うけど、<u>私も ちょっとわからなかつたりすると、そのバトルの仕方もあるんで</u>。白組さんも」</p> <p>○「(ポケモンの絵を)写した物をまた写して。<u>写し絵の紙はだから(スグルがしたい時のために)私も用意はしていたんですが</u>」「<u>でも、青(組)さん には難しいかなと</u>」「<u>青(組)の遊びではないよと半分思いつながら</u> ⇒ <u>「スグル君が最近気になってるというか」「興味関心はあるし賢い子だけど」「パッパパッ歩行っちゃうので」「少し落ち着いて深めて みたいところは、ずっと思っているんだけれど」「今日はまあ(行事等もなく)ゆっくりかわされる日かなと思ったので」「しかも 段ボールがあるって言ったからと思ったけど」「イメージがわからないと思いつながら</u> ⇒ <u>「白のしっぽりに入ったり(するので)」「サッカーかなとかいろいろ思ったり」「なかなか難しいなって」「どうかしないといけな いよ」と思って過ごしている今日この頃</u>」「<u>私の今週の課題はスグル君だ</u>」</p>
<p>②-2 気になって いるスグル と遊ぶ :セイヤ・ コウタの 落葉遊び</p>	<p>○「セイヤ君とコウタ君が先週の木曜日に、「イチョウを結構たくさん集めていて」「リヤカーの中に入れてたんですね」「それで、また遊ぶつ て言って」(翌日は)休みだったので、「<u>「混るから袋に入れとこう</u>」って言って、一緒に袋に入れてとっておいで。(その後も中学生が来るので一 緒に遊ぶだろうと考え)全然私も言わなくて、多分出してもそんなにならないだろうと思ったから」</p> <p>○「今日は外に行ってブランコとかしてたので、『<u>とってあるけど、どうする?</u>』って言ったら、『<u>あーそうだった</u>』って言って」「<u>滑台に行ったから (そこでイチョウを使って遊ぼうと考え)、イチョウを流しながら</u>」「<u>「イチョウが水」とか言って</u>」「<u>「これ(滑台)が水道で」「水流そうみたいな感じで</u> 」</p> <p>○「(そこに)スグル君が入ってくると」「<u>集めたものをワーッてするから</u>」「<u>「ちょっと配慮がないなあと思いつながら、だまって話をしてて</u> ⇒ <u>「だから、スグル君を支えてあげないと</u>」「<u>いろんな行動が気になるのもあるんだけど</u>」「<u>「ちょっと満足してないやっていうのもあって</u> 」「<u>ポケモンセンターって言いながら、ウーンってなったかな、ここ(落葉遊び)の中に入ったけど、ウーンってなったかな、多分、 彼の中ではそういう生活かなって思ってた</u>」</p>

ルが入った時には、セイヤたちが集めたイチョウを「ワーッてする」ことに対して配慮がないよと伝えることになってしまった。

この日のスグルとのやりとりについて振り返る中で、スグルが「気になる」のは彼が遊びの中で「満足してない」ためであり、スグルを支えることが自分の「今週の課題」だということがYの中で明確になった。

Ⅲ-3 3学期の保育について

表3-1 3学期のYの語りからの抜粋（1月10日：雪）

<p>① 子どもの姿</p>	<p>○「始業式の日(一昨日)に、いろんなもの(正月遊び)を紹介したんですよ」 ○「昨日も朝来て一番」「コマにまず行って」「まず正月のことするなあとと思ったら、もう10時ぐらいからは」「レイちゃんたち、ままごととして、ここに工作がワーツと始まって、武器作ってワーツになってって感じで」「いつもの遊び」 ⇒「前半、正月遊びやろうと思って来てるなっていうのはあったけど、それはやっぱりとっかかりの部分で」 「幼稚園はこうだったって思い出したなっていう感じ。思い出しましたね、みんな子どもたちがね」</p>
<p>② 雪遊びを朝から楽しむ</p>	<p>○「あんまり雪遊びができるほどではないかと思ったけど」「来てみたら、わりと雪があったので。やっぱり今日は雪だなと思って。朝の状態を見て思いました」「昨日までの流れとかは、あんまりないんですけど」 ○「雪が降ってくると休みの子も多いし、遅れる子も多いので」「来た人が楽しめるということが大事で」「思ったよりも早く出ようって自分で思ってた。先生たち(補助教諭とN)も二人いらっしやったから」「みんなが雪にふれて遊んでほしいなっていうのは思ってた」「あの人出たかな、この人出たかな」「その子その子の、やっぱり雪とかかわりの中で好きなことは何かなくて」「幼稚園ではそんなに何度も雪はないので」 ○「マナちゃん」「ミオちゃんと雪だるま作ったり」「タクちゃんは、ずっと投げてきました」「根気よくずっと続けて」</p>
<p>③ 白組が作ったかまくらに行ってみよう誘う</p>	<p>○「そこ(保育室の裏)で雪やってる時に、白組さんが、『かまくら作ったから入る?』って来たんですよ。」 ○「で、かまくらって聞いたから、(かまぐらの遊びも体験してほしいと思い)『ほんとー?』って言って」「『え、行ってみよう』って言ったら、セイヤ君とコウタ君がすぐ走ってパツとついて行って」「私はハルト君もいたから、『ハルト君いこう』って言って、結構遅く」「最後に行っただけど」 ⇒「そういうのが、セイヤ君もコウタ君もできるようになったと思って」「11月頃イチョウで遊んだ時も」「気持ちは続く人ですよ」 「だけど、気持ちは続くけど、自分ではそんなに動かないっていうか」「動きも大きくなったあと」 ⇒「支え合ってやっただけど」「分かりあえる二人だよ、みたいな感じになっているなって」</p>
<p>④ お正月の話をする場を設ける</p>	<p>○「帰りに話をしてるのは」「昨日から始めているんですけど、(この人たち話すのは好きだからと思って)」「4歳児のわりには」「よく言うと思うんですよ」 ○「で、昨日なんか結構たくさん、こうしてあしてこうして」「コマしたり羽根つきしたり、みたいな感じで」 ○「今日の人はまあ普通な感じだけど、それでも1個では終わらないで、2個3個とか言おうとするかなと思って」 ○「みんなくまでやろうと思っていて、その時に」「言った子に当ててもらおうと思って」「すると、誰当てるかなっていうのは、いろいろ面白いかねあと思って」 ○「タケル君が岡山に行って」「いっぱい話したんですよ」「で、岡山のおみやげをもらっていたので」「それを配ったんですよ」 ○「で、コウタ君もおみやげもらったけど、『コウタ君、明日手をあげて』って言って。コウタ君はね」「ああいうのはね。あげない子なんだけど(コウタにも話をしてほしいと考えて)」「手をあげて、僕は行っただって言うから、それからお菓子を配ろうって言って、『明日そうしよう』って言ったら、『うん』と言って帰ったので」「今日コウタ君を見てたら手をあげたので」「『コウタ君にあてて』って言って、お願いをしたんですけど」 ○「リコちゃんも」「すごく早くあげたので」「カイちゃんも悩んでたからお願いで、リコちゃんがビュッと挙げたから、『ちよっとお願ひ、あててみて』って言って」</p>
<p>⑤ 3学期の見通し</p>	<p>○「3学期になってくると」「ちよっと先を行ってる人たちは」「仲良しとは別で、男の子と女の子が」「自分のクラスの人みたいな」「学級としてのなんかが出来てくるので」「一緒になって、同じだよええみたいな感じで見られるのが4歳の3学期だろうなって思うんだけど」 ○「なので、あの人があててって言うても、あてれたりする頃ですかね。とったりもして」 ○「コマとかも、男女が一緒にこうやって競争したりとか、そういうことが段々あるようになるんだけど」</p>

(1) 1月10日(3学期3日目):雪(表3-1)

① 3学期始業式(二日前)では遊戯室に集まり、保育者らが子どもたちにお正月の遊びを紹介した。その後、Yは子どもたちに自分で色を塗ることができる木地コマを渡し、回し方を教えた。そのため、前日も子どもたちは登園してコマで遊んだが、その後は「いつもの遊び」になり、Yは「幼稚園はこうだったって思い出したな」ととらえていた。

② この日は、珍しく園庭で雪遊びができるくらいに雪が積もった。いつもより早く幼稚園に来てそのことを確認したYは、幼稚園で今日しかできない雪遊びを楽しもうと考えた。そして、

表3-2 3学期のYの語りからの抜粋（2月21日：晴れ）

<p>① 白組と一緒に 飼育活動 をする</p>	<p>○「今日は、飼育をするのが一番で」「ウサギの世話っていうお仕事が、白（組）になったらあるっていうことと」「どうもこんなことするらしいとか、白（組）さんにかかわってもらったみたいなのが残ったら、いいだろうなって思いながら」</p> <p>○「今日の人たちは、みんなその気持ちがある子たちなので」「話聞きながら、やりました」 ⇒「休みの（子どもの）関係で、どうしても、このグループよとはハッキリ言えなかったんだけど」 「楽しみにして、餌もって（幼稚園に来て）っていうふうには、ちょっとならなかったんですけど」「でもまあ、やる気ではいて」</p>
<p>② 子どもたち の変化 ・遊びの共有 ・男女一緒に</p>	<p>○「昼から外に行って遊ぼうねってとか言って行くと、みんながワッと来て。数えたらみんないるわっていう日が、この一週間二週間あったんですよ」「女の子もいるんですけど、男の子も全員」</p> <p>○「その頃からユウ君が変わってきたなっていうか」「自分のしたいことをしたいんだけど、それにやっぱり人が入ってことがすごくうれしくなって来てるなって」「タクちゃんもそうで」「みんな」ってよく言うようになって」 ⇒「こうやって遊ぼうみたいなイメージの部分で、ちょっと一緒っていうことを、思い出した（始めた）なって」</p> <p>○「この2、3日はまたちょっと違って。男女が仲良くなっているの」「いつも『入れて』って言って入るんですね」「今日のご飯（弁当時に男女一緒に座る）とかもわかると思いますけど」「話をしながらみたいなことがすごくあるようになって」 ⇒「男女が一緒にという部分と、イメージを共有して遊ぶようになってって部分が、今、混在しているところなんです」</p>
<p>③ チームでの 遊びを一緒に にする</p>	<p>○「今、ユウ君は、遊ぶよとか行くよとか、俺がリーダーよみたいな」「ついて来いよみたいな感じ？はすごくあって。今日も、『僕のチーム』っていうのはすごくずっと言ってて」</p> <p>○「今日も途中から私が飼育が終わって」「行ったら、ユウ君が『これで6人になった』とかなんか言ったんですね」「カイちゃんと私が一緒に入ったんですね」「先生が6番目だ』って言って数えたら、すでに6人いたの、『カイちゃんが7番で私が8番だ』って話をしながら入ったんだけど」 ⇒「ユウ君はやっぱり仲間が何人いて、これだけで遊んでるっていう気持ち、持っているなと思って」</p> <p>○「カイちゃんも、今日はすごくそんな感じ」「で、カイちゃんとユウ君が一緒にチームになって」（他の子どもたちと）流動的になりながら、なりながらも、なんとなくこう、チームで戦うんだみたいな感じで、言っていましたね」</p> <p>○「メロンエナジーだったり、何かチームだったりしながら」「毎回毎回、『あ、やっぱり僕こっちのチームになる。』『やっぱりこっちのチームになる』とか言って、『お探せー』とか『行けー』とか言って」 ⇒「秩序というか、見つかったら終わりとか、何か補まえに行くとか、そんなのがある歌ではないんですけど」</p> <p>○「午後は宝探しみたいな感じで。『向こうのチームが宝を隠したら探してみたいな感じでした。』『ずっと戦いたいんだけど、彼らは』『リコちゃんやシホちゃんも来たので、じゃ、ちょっとそんなこともしてみたいな感じかな』『ちょっとかくれんぼ的になったりとか』『鬼ごっこ的なりとかいう時もあるんだけど、そうなることを、ユウ君はあんまり好きではないなっていうのは思いますね。やっぱり」 ⇒「見つかったり戦ったり」「追っかけたりみたいなことを」「いろいろやってみる感じですかねえ」</p>
<p>④ 3学期に したいこと :遊びを 広げる</p>	<p>○「3学期ってのは、あんまりこちらの手はいらない」「だから、いらない分」「いろんな経験を提案してあげようと思うんだけど」 「それが、この子たちは難しい」（指編みを教えると、すぐに覚えた）レイちゃんとかはそんなことないんですけど」</p> <p>○「今日は何が始まるかしらというような、そんな雰囲気ではないかな」「帰る時に」「はないちもんめとか」「わりと今頃はやるようになってるけれども、『ピタッときたなっていう感じが無い』というか」</p> <p>○「戦いのことだったらね、何してもそこへ行くなっていうのはね、今の私の結論」「おぼけも洞窟もしはするけど」「ウエイトの中で考えたら少ないなって思うんですよ」「戦いしようっていうのは、最初からずっと言われてたなと思って」</p>

子どもの登園時には外で迎えながら雪遊びに誘い、一人一人の子どもが「雪とのかかわりの中で好きなことは何か」を探りながら雪遊びを楽しんだ。

③ 5歳児が「かまくら作ったから入る？」と誘いに来た時には、Yは子どもたちと一緒に行くこうと考え、「ほんとー？」「え、行ってみよう」と言った。すると、セイヤとコウタはYより

先に5歳児について走って行った。その二人の姿を見て、Yは「動きも大きくなった」ととらえ、「分かり合える二人だよなみたいな感じ」になったともとらえた。

④ Yは帰りの集まりの時に、前日から子どもが一人ずつ話をする時間を設けていた。この子どもたちは話すことが大すきで、実際に4歳児にしてはよく話すためであった。そして、一人一人の子どもが誰をあてるかを見るのも「面白い」と考え、話をした子どもが次の子どもをあてるようにした。

前日には、おみやげを持って来て祖母の家に行った話をした来た子どもがいた。そのため、同じようにおみやげを持って来ていたコウタにも、Yは「明日手をあげて」「僕は行ったって言うてから、それからおみやげを配ろう」と話してみた。彼はこういう時には手をあげないためである。すると、コウタは「うん」と言って帰り、この日手をあげた。それを見たYは、話をした子どもにコウタをあててもらおうように頼み、コウタも話をする事ができた。

⑤ Yはこれまでの経験をふまえ、4歳児3学期になると、「仲良し」とは違う「自分のクラスの人」という気持ちをもち始める子どもが現れて、「学級」という雰囲気によりできてくるととらえていた。そのため、男女関係なく次に話す人をあてる事ができるとも考えていた。

(2) 2月21日：晴れ (表3-2)

① この日は5歳児と一緒に飼育活動を行なった。進級すると自分たちの仕事になるウサギの世話は「こんなことするらしい」とわかること、5歳児に教えてもらいながら一緒に取り組むことを大事にしたいと考えていた。事前にどのグループが行うかを伝え、楽しみにして幼稚園に来ることができるとういとも考えたが、欠席の子どもがいないグループにしたいため、そういう形にはしなかった。

② この時期になると、Yが3学期当初に予測していた通り、男女一緒に遊んだりお弁当を食べたりする姿がよく見られるようになった。また、クラスのみんなで遊ぶことを楽しむ姿も見られ、その中で「自分のしたいことをしたい」ユウも、一緒に遊ぶことに楽しさを見出すようになってきたとYはとらえていた。

③ この時期、Yは子どもたちの遊びの中に入り、互いが考える遊びの内容を調整しつつ、子どもたちがすきな「チーム」での遊びを楽しんでいた。そして、ユウたちがずっと戦いごっこをしたい気持ちがあることはわかりながらも、女兒が入って来た時等の機会もとらえ、「かくれんぼ的」「鬼ごっこ的」な遊びも楽しむことができるようにと考えていた。

④ また、子どもたちが「(保育者の)手はいらない」ようになってきたため、Yは「いろんな経験を提案してあげよう」とも考えていた。そのため、帰りの集まり等に新しい遊びを紹介して一緒にやってみたりしていたのだが、「今日は何が始まるかしら」という雰囲気ではなく、「ピタッときたな」という実感がもてないでいた。そのことが子どもたちの課題であり、自分自身の実践上の課題でもとらえていることが、「それが、この子たちは難しい」という言葉に表れていた。

IV まとめと今後の課題

Yは子どもの姿からとらえたこと(解釈)をもとに予測、推察をし、そこから実践行為を計画する過程を具体的に語った。年度当初は、子どもが自分から行動をおこす姿をとらえて語ることが多かった。新しい環境の中で、自分のすきな遊びが見つけられているか、見つけようと

しているかをとらえようとしていたためだと考えられる。

(例) 4月26日リコ・ハナ「ちょっと反応を示してやって来たので

ショウ『『ドライブスルーになってるんだ』って言って』『そこどこか行ってみたい』って言って」

実態把握を始めたばかりのこの時期は、推察・予測した子どもの姿と実際が違ったと語った場面もあった。

(例) 4月26日「跳んでみたり...跳ねてみたり...渡ってみたり...っていうことかな」→「イメージ持ってんだ」

また、子どもたちがまだ「群れて遊ぶ」(7月4日)状態になっておらず、一人でどこかに行ってしまう子どもも多いため、一人一人の姿を把握しようと努めており、「空間俯瞰的理解」にもとづいて語ることも多かった。「空間俯瞰的理解」はその後、子ども同士の関係、遊びと遊びの関係について考える際にも語られた。

(例) 4月26日「一緒に出て行ってたのは見てた」

「自分たちであそこまで行ったなって思ったのが一昨日だったんですね」

「私が一瞬見失っていたので」「見に行きたいけどなって思いながら」

「ちょうど死角になっていて」「青組は、ことごとく(保育室から見える場)で遊んでほしいって」

(例) 5歳児白組の遊びを実践行為の計画にいかす

4月26日「(白組で)『ジュースやさんがあるから行ってみましょつか、お姫様』とか言って」

7月4日「博物館を白組は時々やってはいたんですけど」「ちょうどいいやと思って、この人たちがやりたい博物館とのイメージ(が明確になること)もあるかしらと思って」

(例) 互いの遊びを見やすい状況にあることを実践行為の計画にいかす

7月4日「わりと今日(子どもたちが)部屋の中にいたので」

8月30日「今日は雨だから、お客さんも来るなどというものもあるので、あの辺(保育室)に人がいるのもわかってるので」「3人や4人で集結しないで済むなって自分も思うので」

その後、それまでの「持続的理解」をふまえ、実態把握はより確かなものになっていった。その中で、休み明けで園生活を再開する2学期、3学期当初には、特にそれまでの保育経験が実態把握にいかされていた。

(例) 8月30日(2学期当初)「休み明けの時は」「1学期の終わり頃してたことを、ボンとまたするんですよ」

「今日は遊ぼうって思って来るなって」

「多分それだろうな。その(6月の洞窟作り)再現だなって今日見てた」

1月10日(3学期当初)「3学期になってくると」「学級としてのなんかが出来て来るので」

またYは、実践の方向の指向をもとに、あらかじめその日の実践行為の計画をする(1月10日:帰りの集まりで子どもが話す時間を設ける、2月21日:5歳児と一緒に飼育活動をする)だけでなく、その日の子どもについての実態把握をもとに今が「チャンス」「ちょうどいい」と考え、具体的実践に移した過程についても多く語った。

(例) 7月4日「博物館もいきっかけかなとは、ちょっと思ってて」「ちょうどいいやと思って」

「ちょうど、チケット持って来た子がヒナコちゃんだから。あ、これは確かだな」

Yは一貫して集団としての育ち、その中での一人一人の子どもの育ちもとらえていた。

(例) 4月26日「言ってることはバラバラなんですけど」

7月4日「結構まとまってとか群れてとか」

8月30日「一緒にしようっていう気持ちはやっぱりありましたね」

「なんとなく共有して」「動いている感じは」「やっぱりあるなど」

12月4日「やっぱりこの時期そうだなと思って」「急にいなくなったら友だちは探すから言っよって」

2月21日「男女が一緒という部分と、イメージを共有して遊ぶようになってって部分が、今、混在しているところなんです」

(例) ユウ 7月4日「ユウ君が自分のいいように動いているところがあるから」

8月30日「こつちがいいと思ったら、そしたらセイヤ君に言ってごらん、みたいなことは話しました」

2月21日「その頃からユウ君が変わってきたなっていうか」「自分のしたいことしたいんだけど、それにやっぱり人が入るってことがすごくうれしくなって来てるなって」

リコ 4月26日「(リコ・ハナは)二人で遊ぶので、新しい子たちの方には遠慮しているところがありました」

12月4日「リコちゃん、ハナちゃんが、ままとの中に非常によく入るようになって」

『レイちゃんとシホちゃんが、もうやめるとか言わないでどこかに行ったのよ』って言って」

2月21日「(男児たちの遊びの中に)リコちゃんとシホちゃんも来たので」

そして、実態把握がより確かなものになるにつれ、子どもの課題、自分自身の実践上の課題も明確にしていった。

(例) 12月4日「パッパパッパ次行っちゃうので」「なかなか難しいなって」「私の今週の課題はスグル君だ」

2月21日「いろんな経験を提案してあげようと思うんだけど」「それが、この子たちは難しい」

今後は、本稿で得られた知見もふまえ、保育経験が浅い保育者が一日の保育をどのように構想していくのかについても検討していきたい。

また、保育者養成にどのように生かしていくのかについても検討していきたいと考えている。

引用文献・参考文献

小川博久 1988 保育実践に学ぶ 建帛社

小川博久 2000 保育援助論 生活ジャーナル

金井壽宏・楠見孝 2012 実践知 有斐閣

河邊貴子 2009 保育学研究 第47巻第2号 pp. 138-141 明日の保育に生きる「日の記録」のあり方-遊びを読み取る視点の必要性-

河邊貴子 2013 保育記録の機能と役割-保育構想につながる「保育マップ型記録」の提言- 聖公会出版

ドナルド・ショーン 佐藤学・秋田喜代美 訳 2001 専門家の知恵-反省的实践家は行為しながら考える- ゆみる出版

文部科学省 2008 幼稚園教育要領

吉村香・吉岡晶子・尾形節子・上坂元絵里・田代和美 1998 乳幼児教育研究 第7号 pp. 55-65 保育者の実態把握における実践構想プロセスの質的検討